

2018年度 研究センター事業報告書

研究センター名	加藤周一現代思想研究センター
---------	----------------

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでわかりやすく記述してください。

当研究センターの研究は「加藤周一を軸とした戦後日本思想の検証」を基本的な主題とするが、この主題のもとに、ふたつの研究活動が進められた。

ひとつは戦後日本思想史のなかで重要な位置を占める知識人——林達夫、丸山眞男、鶴見俊輔などの研究を進めることであった。これに関してはまず「加藤周一研究会」における発表および討議がある。5月に鈴木貞美氏が「加藤周一から学んだこと」という報告をされ、7月に福井優氏（立命館大学院生）が「加藤周一における精神の建築 — 「文化接触」をめぐる問意」という報告を行ない、報告に関する検討を加えた。

そして2017年末に締結した立命館大学加藤周一現代思想研究センターと東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センターとの学術提携協定に基づき、共同企画展示「君たちはこれからどう生きるか——丸山眞男と加藤周一から学ぶ」を催し、この企画展示にあわせて『丸山眞男 加藤周一読本』を編集し配布した。これは丸山研究・加藤研究の成果として、同一企画展示を立命館大学（衣笠、いばらき、びわこ）と東京女子大学で行なった。

また企画展示の平行企画として「トークセッション」（鷲巣力研究センター長・渡辺浩丸山眞男文庫顧問）を東京女子大学で行ない、加藤周一文庫顧問の樋口陽一氏（研究分担者）が丸山眞男記念講演会で「リベラル・デモクラシーの現在」という講演を行なった。

2018年は加藤周一歿後10年にあたり、10月に立命館大学「土曜講座」と第3回加藤周一記念講演会とを兼ねて4回の連続講演会を開き、寺島実郎「戦後日本と加藤周一」、三浦信孝「加藤周一と1934年生まれ世代」、君島東彦「加藤周一の平和主義」、中川成美「加藤周一のパリ——思索的逍遙」と題した講演を行なった。三浦信孝氏と中川成美氏は、科研費プロジェクト「加藤周一を軸とした戦後思想の検証」の研究分担者である。

もうひとつが「研究成果活用」である。これに関しては、加藤周一文庫が所蔵する加藤周一の遺した手稿ノートの精査およびデジタルアーカイブ化があり、もうひとつが刊行物の発刊がある。

手稿ノートの精査とデジタルアーカイブ構築は研究センターのメンバーが中心となって進めたが、本年度は「1968 1969」「詩作ノート」「NOTES on Arts」「狂雲集註」「日本文学史 古代」「日本文学史 平安」の6冊を精査し、デジタルアーカイブとして公開した。「1968 1969」は加藤の代表作である「言葉と戦車」の執筆のためのノートであり、加藤理解にとって重要な資料である。「詩作ノート」は加藤がフランス留学時代に詠んだ愛の詩の数々である。「Notes on Arts」は加藤の日本美術史研究を始めた頃のノートであり、「狂雲集註」は一休宗純の漢詩集『狂雲集』に対する註であり論文「一休という現象」の準備作業のノートである。「日本文学史 古代」「日本文学史 平安」は、いうまでもなく日本文学史研究のためのノートであり、加藤の主著となる『日本文学史序説』を理解するには不可欠の資料である。

つぎに刊行物としては、鷲巣力が『加藤周一はいかにして「加藤周一」となったか』（岩波書店）を刊行した。これは加藤周一の代表作である『羊の歌』を読みなおすという主題であり、加藤周一の知られざる側面に光を当てた書である。また鷲巣力・渡辺考編著による『加藤周一 青春と戦争』を論創社から出版した。本書は2016年に放送された『加藤周一 その青春と戦争』というNHK特集番組をもとに、大幅に書き加えたものである。本書には加藤周一研究センターの若手スタッフや立命館大学の学生・院生12人が参加した。さらに2019年5月に刊行する人文書院刊『加藤周一 青春ノート』を鷲巣と研究員の半田侑子が編集作業を進めた。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2019年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	鷺巣 力	衣笠総合研究機構	客員教授	
運営委員	加國 尚志	文学部	教授	
	湯浅 俊彦	文学部	教授	
	岡本 雅史	文学部	教授	
	西岡 亜紀	文学部	准教授	
	北村 順生	映像学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	小関 素明	文学部	教授	
	中川 成美	文学部	特任教授	
	根津 朝彦	産業社会学部	准教授	
	福間 良明	産業社会学部	教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	半田 侑子	衣笠総合研究機構	研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	西澤 忠志	先端総合学術研究科	一貫制博士課程3回生
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	猪原 透	文学部	授業担当講師	
	住田 翔子	産業社会学部	非常勤講師	
客員協力研究員	樋口 陽一	東京大学	名誉教授	
	三浦 信孝	財団法人日仏会館	副理事長	
	ジュリー・ブロック	京都工芸繊維大学・工芸科学研究科	教授	
	彭 佳紅	帝塚山学院大学・人間科学部	教授	
	桜井 均	NHK放送文化研究所	特任研究員	
	石塚 純一	札幌大学	名誉教授	

	龍澤 武	東アジア出版人会議	理事
	宮村 治雄	成蹊大学アジア太平洋研究センター	客員研究員
	川口 雄一	東京女子大学(丸山眞男記念比較思想研究センター)	職員
	小島 潔	岩波書店	常務取締役
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	野口 雅弘	成蹊大学	教授
	富山 仁貴	関西学院大学文学研究科	学振特別研究員DC
研究所・センター構成員 計 26 名 (うち学内の若手研究者 計 2 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2019年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	鷺巣 力	加藤周一はいかにして「加藤周一」となったか	単著	2018年10月	岩波書店		全510頁
2	鷺巣 力	加藤周一 青春と戦争	共著	2018年12月	論創社	渡辺 考	全240頁
3	湯浅 俊彦	ICTを活用した出版と図書館の未来—立命館大学文学部のアクティブラーニング	単著	2018年4月	出版メディアパル		全108頁
4	岡本 雅史	情報デザイン	共著	2018年5月	共立出版	田中克己・黒橋禎夫(編)	p.52~69
5	岡本 雅史	聞き手行動のコミュニケーション学	共著	2018年12月	ひつじ書房	村田和代(編)	p.59~88
6	北村 順生	ともに生きる地域コミュニティ：超スマート社会を目指して	共著	2018年10月	東京電機大学出版局	遠藤薫・榊原一紀・玉置久・河又貴洋・服部哲・松本早野香・吉田寛・平田知久・榎木哲夫	p.43~55
7	根津 朝彦	戦後日本ジャーナリズムの思想	単著	2019年3月	東京大学出版会		全400頁
8	三浦 信孝	ヴァレリーにおける誌と芸術	共著	2018年8月	水声社	塚本 昌則	全362頁
9	三浦 信孝	フランス革命と明治維新	共著	2018年12月	白水社	塚本 昌則	全231頁

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	鷺巣 力	林達夫への精神的逍遥(7)	単著	2018年4月	イタリア図書、58号		p.2~11	無
2	岡本 雅史	生演奏場面における演奏者と観客の相互フィードバック～個々の振る舞いがもたらす集的影響に着目して～	共著	2019年1月	電子情報通信学会技術研究報告 vol.118, no.437	馬部未奈実	p.13~18	無
3	西岡 亜紀	「日本語」でフィクションを書くという格闘 ～マチネ・ポエティクと大岡信をつなぐ線～	単著	2019年3月	『昭和文学研究』、第78集		p.41~54	有
4	小関 素明	近代日本の公権力と戦争「革命」構想	単著	2019年1月	立命館大学人文科学研究所紀要、117巻		p.5~217	有
5	中川 成美	戦時性暴力と文学の関係	単著	2018年11月	立命館言語文化研究、30巻、3号		p.19-23	有
6	根津 朝彦	「1960年代という「偏向報道」攻撃の時代—「マスコミ月評」に見る言論圧力」下	単著	2018年6月	『立命館産業社会論集』54/1		p.91~108	有
7	根津 朝彦	資料紹介 桑原武夫所蔵書簡—1920年代の青年期を中心に	単著	2018年6月	『人文学報』(京都大学人文科学研究所)、112		p.111~138	有
8	根津 朝彦	東大闘争の専従記者から見た「1968年」報道—『毎日新聞』の内藤国夫を中心に	単著	2019年3月	『国立歴史民俗博物館研究報告』、216		p.121~152	有

9	福間 良明	『野火』に映る戦後	単著	2018年6月	『戦争社会学研究』、第2巻		p.26~42	有
10	福間 良明	The Construction of Tokkō Memorial Sites in Chiran and the Politics of "Risk-Free" Memories	単著	2019年3月	Journal of the International Research Center for Japanese Studies ,33		p.247~270	有
11	猪原 透	「自由民権」と「社会主義」のあいだ—久松義典の社会学研究をめぐって—	単著	2019年1月	立命館大学人文科学研究紀要、No117		p.367~396	有
12	三浦信孝	日仏会館と人文社会科学—現代フランス研究と批判的日仏比較の視座から	単著	2019年3月	日仏会館『日仏文化』、88号		p.120-136	無
13	ジュリー・ブロック	読書から翻訳へ、読者の自由と翻訳者の葛藤——『万葉集』の二首の和歌の例を通して——	単著	2018年11月	『文学・語学』、第223号		p.14~24	有
14	ジュリー・ブロック	Trajectivité, littérature et traduction 「通態性、文学と翻訳」	単著	2018年12月	Mésologiques - Etudes des milieux		p.1~5	無
15	ジュリー・ブロック	La fonction des images dans l'œuvre poétique d'Abe Kōbō - Figuration de l'objet et transfiguration du sujet 「安部公房の詩におけるイメージの役割—客体の形成と主体の変形」	単著	2018年12月	Japon Pluriel 12 - Autour de l' image : arts graphiques et culture visuelle au Japon - Actes du douzième colloque de la Société française des études japonaises、複数の日本、フランスにおける日本研究会 第12回学会報告-日本におけるグラフィックアートと視覚芸術、vo12		p.417~426	有
16	川口 雄一	丸山眞男「丸山眞男「「である」ことと「する」こと」の知的世界：「思索の現場」から	単著	2018年4月	『国語教室』、第107号		p.36~39	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	加國 尚志	Not Touching Him, Merleau-Ponty Around Derrida's Lecture of Merleau-Ponty	2018年4月13日	Symposium on "Phenomenology and (Post-) Structuralism"	
2	加國 尚志	錯綜体、潜在性—市川浩身体論再考	2018年9月7日	日仏哲学会プレ・イベント企画「見果てぬ哲学」	
3	岡本 雅史	生演奏場面における演奏者と観客の相互フィードバック～個々の振る舞いがもたらす集合的影響に着目して～	2019年2月1日	電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS) 2019年2月研究会	
4	岡本 雅史	外食場面における外部割り込みからの話題再開ストラテジー	2019年3月17日	社会言語科学会第43回研究大会	
5	岡本 雅史	漫才対話の「テンポの良さ」を支える発話リズムの同期・変調パターン	2019年3月17日	社会言語科学会第43回研究大会	
6	岡本 雅史	漫才対話研究は会話コミュニケーションの何を明らかにするのか？	2019年3月25日	第13回 VNV 年次大会「言語・非言語コミュニケーション研究の本音と建前」	
7	岡本 雅史	相互嵌入する対話と独話：〈一人〉で語り合い、〈二人〉で物語ることについて	2019年3月28日	京都言語学フォーラム第1回研究会	

8	西岡 亜紀	『モスラ』における原始 vs 文明 —文学 (または文学者) の運命	2018年4月28日	第13回中村真一郎の会総会シンポジウム「生誕100年 中村真一郎と福永武彦」	
9	西岡 亜紀	マンガ・アニメ世代にこそ読んでほしい福永武彦と中村真一郎	2018年8月26日	日本マンガ学会 名古屋マンガ研究部会	
10	小関 素明	明治維新とは何か？王政復古論	2018年12月9日	明治維新150周年記念連続公開セミナー (第7回)	小路田泰直 (奈良女子大学副学長)
11	中川 成美	国家は誰のものか—災禍のなかの文学的想像力	2018年6月23日	日本近代文学界 (6月例会)	
12	中川 成美	加藤周一のパリー思索的逍遥	2018年10月27日	第3255回立命館大学土曜講座	
13	中川 成美	林芙美子とカーアン・ブリクセン	2018年11月3日	おのみち林芙美子記念会主催国際交流・文化講演会	
14	猪原 透	書評：『暴力と社会秩序—制度の歴史学のために』	2018年8月4日	京都民科歴史部会	
15	樋口 陽一	リベラル・デモクラシーの現在—その中で日本国憲法を「保守」する意味	2018年12月1日	丸山眞男文庫記念講演会、東京学芸大学	
16	三浦 信孝	加藤周一と1934年生まれ世代—樋口陽一、海老坂武、大江健三郎、西川長夫	2018年10月13日	第3253回立命館大学土曜講座	
17	川口 雄一	南原繁の政治哲学における「世界秩序」構想と立憲主義：戦前・戦中・戦後	2018年10月13日	2018年度日本政治学会研究大会 (公募企画・日本学術会議主催「国際秩序思想と憲法」)	
18	川口 雄一	改憲論の歴史的文脈と南原繁：自衛権・平和主義の問題を中心に	2018年11月3日	南原繁研究会主催・第15回南原繁シンポジウム	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第3回加藤周一記念講演会 戦後日本と加藤周一	衣笠キャンパス	2018年10月6日	300名	衣笠総合研究機構、立命館大学図書館
2	土曜講座「加藤周一と1934年生まれ世代—樋口陽一、海老坂武、大江健三郎、西川長夫」	衣笠キャンパス	2018年10月13日	180名	衣笠総合研究機構
3	土曜講座「加藤周一の平和主義」	衣笠キャンパス	2018年10月20日	180名	衣笠総合研究機構
4	土曜講座「加藤周一のパリー思索的逍遥」	衣笠キャンパス	2018年10月27日	300名	衣笠総合研究機構
5	加藤周一現代思想研究センター研究会 「加藤周一から学んだこと」 (講師：鈴木貞美氏)	衣笠キャンパス	2018年6月15日	15名	
6	加藤周一現代思想研究センター研究会 「加藤周一における「開かれた精神」——「文化接触」をめぐる問い」 (講師：福井優氏)	衣笠キャンパス	2018年7月18日	15名	

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	湯浅 俊彦	指定管理者制度がもたらす公共図書館のイノベーション	図書館雑誌 112(6)、p.391-393	2018年6月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当なし					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	鷺巣 力	加藤周一を軸とした戦後日本思想の検証	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
2	加國 尚志	間文化性の理論的・実践的探求——間文化現象学の展開	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	代表
3	加國 尚志	平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	分担
4	岡本 雅史	社会的ヘテロフォニーとしての漫才対話～オープンコミュニケーションの超分節性の解明	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
5	岡本 雅史	語りの生成と変容のダイナミズムに関する認知語用論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
6	北村 順生	映像アーカイブの教育活用によるサーキュレーション型文化創造に関する実践的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
7	西岡 亜紀	福永武彦と加藤周一を通じた1930～40年代の若手文学者の知的ネットワークの解明	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
8	根津 朝彦	共同通信社のジャーナリズム史研究—ジャーナリストの思想を中心に	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
9	福間 良明	転換期としての「昭和50年代」と大衆メディア文化の変容	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	代表
10	福間 良明	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担
11	福間 良明	現代の戦争研究と総力戦研究とを架橋する学際的戦争社会学研究領域の構築	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
該当なし						

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当なし								